

重度訪問介護の入院中の提供について

1 概要

平成30年4月の報酬改定により、病院等に入院又は入所をしている障害支援区分6に該当し、病院等へ入院又は入所する前から重度訪問介護を利用している者に対し、病院等との連携のもと、利用者が病院等の職員と意思疎通を図る上で必要な支援等を基本に提供が可能となった。

2 対象者

下記のいずれにも該当する利用者。

- ・障害支援区分6に該当する者。
- ・病院等へ入院又は入所する前から重度訪問介護を利用している者。

3 算定要件

- ・病院等に入院又は入所中の利用者に対する重度訪問介護の提供に当たっては、病院等との連携のもとに行うことを報酬算定上の要件としている。
- ・重度訪問介護により具体的にどのような支援を行うかについて、個々の利用者の症状等に応じて、病院等で提供される治療等に影響がないように病院等の職員と十分に調整した上で行う必要がある。
- ・入院又は入所中の病院等における支援等に当たっては、原則として、指定重度訪問介護事業所等と当該病院等が、利用者の病状等や病院等が行う治療等及び重度訪問介護の支援の内容について共有した上で行う。

4 提供内容

- ・病院等に入院又は入所中には、健康保険法の療養の給付や介護保険法の介護給付等（他法給付）が行われることなどから、重度訪問介護により提供する支援は、利用者が病院等の職員と意思疎通を図る上で必要な支援等を基本とする。
- ・意思疎通の支援の一環として、例えば、適切な体位交換の方法を病院等の職員に伝えるため、重度訪問介護従業者が病院等の職員と一緒に直接支援を行うことも想定される。

5 従業者の要件

重度訪問介護の従業者であって、利用者との意思疎通を図ることができる者。

資料17（午前）	平成31年3月18日
障害福祉サービス等に係る事業者説明会	
千葉県障害福祉サービス課	

6 算定に係る考え方

- ・入院又は入所した病院等において利用を開始した日から起算して90日を超えて支援を行う場合は、障害者へのコミュニケーション支援等の必要性について、市町村が認めた場合に限り、所定単位数の100分の80に相当する単位数を算定する。
- ・90日を超える利用に当たっては、30日ごとに、重度訪問介護の必要性について市町村が認める必要がある。
- ・当該日数について、入院又は入所していた病院等から利用者が転院する等により、意思疎通の支援等の必要性が改めて認められる場合にあつては、転院先の病院等において利用を開始した日から改めて起算するものとする。

7 実績記録票の書き方

- ・病院等に入院又は入所中の提供については、「サービス提供の状況欄」に「1」を設定。
- ・90日を超える入院又は入所中の提供については、「サービス提供の状況欄」に「2」を設定。

重度訪問介護の入院中の提供について

資料17（午前）	平成31年3月18日
障害福祉サービス等に係る事業者説明会	
千葉県障害福祉サービス課	

平成 30 年度障害福祉サービス等報酬改定等に関する Q & A VOL. 1

（平成 30 年 3 月 30 日） （抜粋）

（2）重度訪問介護

（入院中の提供の算定について①）

問 29 重度訪問介護を病院等への入院時に利用するに当たり、在宅時の利用と分けて支給決定をする必要はあるか。

（答）

不要である。

（入院中の提供の算定について②）

問 30 これまで居宅介護のみを利用してきた者が、入院した後に重度訪問介護の支給申請を行った場合、認めることはできるか。

（答）

認められない。本改正では、重度訪問介護によるコミュニケーション支援も含め、比較的長時間にわたり断続的な支援を必要とする利用者に対して、入院中も当該利用者の状態等を熟知したヘルパーによる支援を受けられるようにしたものである。

なお、地域生活支援事業における意思疎通支援事業については、従来どおり、病院等に入院中の障害者にもコミュニケーション支援を行えるものであり、引き続き、対象者等を含めて柔軟に運用していただいて差し支えない。

（入院中の提供の算定について③）

問 31 入院中に重度訪問介護を利用している者について、在宅時の利用から支給量を増やすことはできるか。

（答）

支給変更決定を行うことは妨げないが、入院中に必要な支援は、基本的には病院等の職員により行われるものであることから、変更の必要性については慎重に検討されたい。

（入院中の提供の算定について④）

問 32 重度訪問介護は、日常生活に生じる様々な介護の事態に対応するための見守り等の支援とともに身体介護等を提供するものであるが、入院中においても、意思疎通に対応するための見守りの時間は報酬の対象となるものと考えてよいか。

（答）

お見込みのとおり。

（入院中の提供の算定について⑤）

問 33 入院中の重度訪問介護の利用は、90 日を超えて利用することはできないのか。

資料17（午前）	平成31年3月18日
障害福祉サービス等に係る事業者説明会	
千葉県障害福祉サービス課	

（答）

入院先の病院等の職員が、当該利用者とのコミュニケーションの技術の習得に時間を要し、障害者の状態等によっては、90 日を超えて支援を要することも考えられることから、利用者や重度訪問介護事業所等から支援状況の聞き取りを行うなどして、必要に応じて、90 日を超える利用を認めることも差し支えない。

ただし、重度訪問介護従業者による支援が、病院等において行われるべき支援を代替することにならないよう、支援内容や病院等との連携状況等については、十分に把握した上で判断する必要があることに留意されたい。

（入院中の提供の算定について⑥）

問 3 4 入院又は入所中の病院等が、重度訪問介護事業所の通常の実施地域以外の地域に所在する場合、当該病院等にヘルパーを派遣したときの交通費を利用者に請求することはできるか。

（答）

基本的にはできないものとする。ただし、病院等が重度訪問介護事業所の通常の実施地域から著しく離れている場合であって、重度訪問介護事業所と利用者との間で合意がされている場合には、交通費の一部を請求することも差し支えないものとする。

（入院中の提供の算定について⑦）

問 3 5 「入院中の医療機関からの外出・外泊時における同行援護等の取扱いについて」（平成 28 年 6 月 28 日付け障障発 0331 第 8 号厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課長通知）において、医療機関からの外出・外泊時に重度訪問介護を利用できることが示されているが、今後は、当該取扱いについても報酬告示第 2 の 1 のロ（病院等に入院又は入所をしている障害者に対して重度訪問介護を提供した場合）により請求することとなるのか。

（答）

入院中の医療機関からの外出及び外泊時に重度訪問介護を提供する場合は、報酬告示第 2 の 1 のイ（病院等に入院又は入所をしている障害者以外の障害者に対して重度訪問介護を提供する場合）の報酬を請求されたい。

よって、報酬の請求に当たっては、入院中の病院等において重度訪問介護を提供する時間は、報酬告示第 2 の 1 のロのサービスコードを選択し、外出中の時間は報酬告示第 2 の 1 のイのサービスコードを選択することとなる。

（入院中の提供の算定について⑧）

問 3 6 入院中に重度訪問介護を利用できるのは、障害支援区分 6 であって、入院前から重度訪問介護の利用をしてきた者に限られているが、入院中の病院から外出・外泊する場合も同様の取扱いになるのか。

（答）

病院等からの外出・外泊時に重度訪問介護を行う場合、報酬告示第 2 の 1 のイ（病院等に入院又は入所をしている障害者以外の障害者に対して重度訪問介護を提供する場合）に該当するため、障害支援区分 4・5 の者や、入院前から重度訪問介護を利用していない者などを含め、重度訪問介護の全ての対象者が利用できるものである。